

2021年5月29日

三位一体の主日

菊地功大司教 メッセージ

「至聖なる三位一体の神秘は、キリスト者の信仰と生活の中心的神秘です。・・・信仰の他のすべての神秘の源、それらを照らす光なのです」と教会のカテキズムには記されています。(234)

わたしたちが「父と子と聖霊のみ名によって」洗礼を受けること、それが、「すべてのキリスト者の信仰は、三位一体に基づいて」いることを明示すると、カテキズムは記します。(232)

パウロはローマの教会への手紙に、「人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです」と記します。御父を、我々からは、かけ離れた厳しく裁く存在としてみるのではなく、わたしたちは聖霊の導きによって御子と同じように御父を親しく感じる者とされているのだと、パウロは強調しています。

復活の主に出会い、聖霊をいただいたわたしたちは、その聖霊に導かれ、父と子と聖霊の交わりへと招かれ、神の子としてキリストと同じ相続人となるのだと強調することで、パウロはわたしたちの信仰が、三位一体の神秘のうちにあることを強調します。

マタイ福音は、三位一体の交わりに招かれたわたしたちに、主は、「あなた方は行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼をさずけるようにと命じたと記します。すなわちわたしたちは、三位一体の神秘にあずかることによって生かされ、その交わりに招かれた者として使命をいただき、全世界の人を三位一体の神秘における交わりに招くように、遣わされています。わたしたちは自分のおもいを告げる者ではなく、三位一体の神を告げる使者であります。

アジアのさまざまな国や地域に置かれている司教協議会の連盟組織である FABC アジア

司教協議会連盟は、昨年で創立 50 年となりました。この 50 年間、アジア全域において、三位一体の神をあかしし、イエスの福音を告げしらせるために、牧者である司教たちの交わりを通じて、福音宣教への共通理解を深めてきました。中でも、FABC は三つの対話、すなわち、「人々（特に貧しい人々）との対話、諸宗教との対話、多様な文化との対話」が、アジアでの宣教において共通する重要課題であると指摘を続けてきました。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1998 年のアジア特別シノドス後に発表した「アジアにおける教会」に、「わたしたちは、アジアの膨大な人口そのものと、人類家族の遺産と歴史のかなりの部分を形作っている多くの文化、言語、信条、伝統の複雑なモザイク模様には驚かすにはられません」(6) と、アジアの現実を生み出す背景を記しました。

その上で、「教会はこれらの伝統を非常に深く尊敬し、これらの信者と誠実な対話をしようとして努力しています。彼らが教えている宗教的価値は、イエス・キリストにおいて成就されることを待っているのです」(6) と記しています。

同時に教皇は、「シノドス参加者は、アジアの社会と文化と宗教における聖霊の働きを喜んで認めました。それらをとおして御父は、アジアの諸民族の心をキリストにおいて完全に成熟するように準備しているのです」(2) とともに指摘されます。

アジアの一員であるこの国において、わたしたちは聖霊に導かれて、御子イエスの福音をあかししようとしています。聖霊の導きに勇気を持って信頼し、さまざまなレベルでの対話を忍耐と喜びを持って続けながら、交わりへと招かれる三位一体の神を、あかしし続けて参りましょう。